

## 2. 安全なまちづくりへの要望

調査の自由意見欄に記された“安全なまちづくりへの要望・提言”には次のような事項がある。自由意見欄の記入者は、子ども自身の場合も親（保護者）が記入したとみられる場合もあったが峻別せず、（１）公園に関する事、（２）街路やまちに関する事、（３）子ども自身に関する事、（４）地域の大人に関する事、（５）警察に関する事、（６）自治体行政に関する事の各項目別に区別して、その特徴を要約する。

### （１）公園

#### ＜配置・レイアウト（配置計画）について＞

・公園の配置については、“地域の人々の日常の生活動線等に配慮し、地域の人々の通りが十分にあってこれらの人の目が注がれる所に配置してほしい。”といった要望がある。公園の配置をどこにするかということは、公園の安全にとって極めて重要な課題である。にもかかわらず、こうした点での検討の不充分さは再考されるべきである。また、“小さな公園（広場・遊園）は昼間から人影があまりない。子どもだけ遊ばせるのは不安である”といった意見や“いろいろな世代の人が集うことができるといい”といった要望がある。これは、広場や遊園といった小さな公園が、ともすれば、住宅団地等の余白の空間に無造作につくられたりしている現実の問題を指摘している。公園・広場は、地域の中心施設の一つとして配置計画の段階から、人々の生活動線や周辺建物との関係を十分に配慮していくことが求められている。

・公園内部のレイアウトについては

公園内部の遊具や樹木の配置については、“公園のレイアウトを工夫して死角になる場をつくらない”といった意見が多い。遊具や樹木の他にもトイレや消防用機材置き場（仮設倉庫）等の配置については防犯上の配慮が求められている。勿論、公園内部は、必ずしも全てが見通せる必要はない。時として見通しを遮る物体の存在が必要なこともある。こうした時には、その物体のもつ防犯上の弱点についての配慮が必要なのである。例えば、その物体の近くに大人達の休息空間を設置したり、高齢者の集う空間を設置したり、大人達の注意が特別に注がれる工夫が必要なのである。

“大きい公園には交番がほしい”という意見もある。地域での交番の設置計画に当っては検討すべき項目であろう。

“公園内の街灯を増やす”といった意見もある。これには街灯そのものの設置数が不十分といった内容の他に、周辺樹木が繁茂して街灯が役割を果していなかったり、

防犯上必要な箇所に欠落しているといった内容を包含している。公園の実情を調査し必要な所にきちんと機能する街灯を設置する必要がある。

“公園内のトイレは友達と一緒にいく”といった意見にみられるように、公園内のトイレは防犯上対応のむずかしい施設の一つである。トイレは周辺からの可視性を高めるにも限界がある。トイレの出入り口は二方向とし、手洗い場の可視性を高めると共に、一人ではトイレには行かないで友達や親と共に行くといった利用上の対策も必要である。

#### <植栽・樹木管理について>

公園にとって、樹木をはじめ植物・自然素材の存在は極めて重要なことである。花木のない公園など想定することはできない。しかし、樹木はその存在の仕方によっては防犯上極めて深刻な問題を発生させている。“公園に木が沢山ありすぎると何をしているのか全くわからない場所が沢山ある”といった不安が表面化する。“不必要な木は取り除いてほしい”といった要望は多く、現実には公園の植栽管理に問題が多いことを示している。公園の植栽に当っては、それぞれの植栽空間に期待される機能と共に、防犯上の視点も十分に考慮して樹種を選択する必要がある。また、樹木は建造物と違って常に成長変化することを考え、年間通した管理計画を怠らないことが重要である。管理主体が中心になりながら、周辺住民の参画を得ていく工夫も必要である。“木の間隔を広くとってほしい”といった提案にみられるように、人々の透視性を遮らない工夫を特に求めている。花や低木、高木を多用しながら、人間の目線の高さの透視性をできるだけ確保する。低木が成長しすぎたり、高木が下部に枝を茂らすことのないような管理も必要である。また、この提案にみられるような防砂・防風等のために目線を切る樹木の列植が必要な場合にも、所々に空いた空間をつくる工夫が必要である。

“公園の周辺に垣根ばかりでなく、フェンスをつくる”といった意見もある。樹木万端でなく、所によってはこうした意見を取り入れていく必要がある。

#### <公園の管理について>

公園については、配置や施設のレイアウトといったハードな面だけでなく、管理運営の在り方についても、防犯面からの意見が多く出されている。この点でまず注目されるのは、“子どもの遊ぶ時間帯には公園に管理人室をつくり、子どもを守ってもらう”という意見に代表されるように、公園に人を配置して子どもを守るといった意見は多い。こうした人々の常駐する施設を要求し、“公園を清浄する人を常駐させ、日中から公園で酒を飲んでいる人や、ホームレスの人に注意してほしい”といった清浄と兼ねた日常的な公園管理の在り方を求める意見がある。また、“マンション近く

の公園はマンションの管理人に日常的な管理をお願いする”といった提案にみられるように、マンション等に付設するような広場や児童遊園については、マンション管理に包含させるといった方向が示されている。また、“近所の住人に声をかけ、何時も注意してもらうような行政から手紙を配り、協力してもらうよう依頼する”といった意見にみられるように、公園周辺の住民の積極的な係わりを期待する意見もある。公園の安全には周辺住民は特別の重要な存在であり、これら住民の公園への積極的な係わりを促進していくためには、住民の公園への要望を反映した形で既設の公園を修復していく必要がある。この他に、“公園等の子どもが集まる場所は、その管理者をはっきりさせ、何かあった時のために連絡先を書いた看板をつくる”といった提案や、“必要な所には監視カメラを設置する”といった提案についても日常的利用者の意見を十分に聞きながら検討することがあってもよい。

公園そのものの管理ではないが、“公園周辺には路上駐車が多い”といった意見にみられるように、公園周辺の路上は路上駐車禁止とし、その徹底をはかる必要もある。公園周辺の路上駐車は子どもの交通事故の心配だけでなく、周辺の人々から公園内部で遊ぶ子ども達の姿を遮断し犯罪の危険性を増大させる。

## (2) 街路・まち

### <街路について>

“安心して通れるみち（歩道・街路・監視の目）を広範囲にわたって確保し、子どもはなるべくその道を利用する”といった意見にみられるように、子ども達の安全な生活道路（街路）への要求は高い。そのためには、“街灯の光を遮る程の大きい木は定期的に枝払いをする”といった意見や、“街灯を増やす”、“街灯の位置を工夫する”といった意見にみられる街灯への要求が少なくない。その他には、街路の見通しをよくするためにカーブミラー等の設置を要望する声もある。また、“まちでみかけるいかがわしい看板やポスターを撤去する”といった意見や、“被害のよくある所には注意を促す立札を立てる”といった意見もある。

### <まちについて>

公園や街路の他に、まち全般に係わる問題としては、次のような要望・意見がある。“まちがきれいなこと、ゴミがいろいろな所に捨ててあったりするような町では秩序は保てない”という意見に象徴されるような「美しいまちづくり」を主張する人は少なくない。ここでいう美しいまちとは、きらびやかな美しさではなく、人々に愛着を持たれ、それ故に秩序の保たれているまちのことである。こうした意見は、“子どもを守ることに熱心なまちという印象を周辺住民にいだかせるまちづくり”という主張

へと発展していく。そのために、“夕方には帰らましようの音楽”、“飲食マナー、ゴミ出しマナーの守られるまち”、“子どもの溜り場を見守る目”といった提案がなされている。

こうした考え方の延長線上に、“商店街の存在が大切なのではないか”といった問題提起がなされる。毎日のように日常生活用品を買い求めてきた地域の商店は、単なる購買施設ではなく、地域の人々が子育ての情報を交換するコミュニティーの空間であり、商店で働く人々は、地域で子ども達を守り育ててきた存在である。今、こうした地域の商店街が衰退し、逆に子ども達にも危険な空間になっている。こうした状況に目を向けていくことが、子ども達の安全なまちづくりに大切だというわけである。

子ども達を犯罪の危険から守っていくためには、地域に存在する危険な空間を排除していただくだけでは不十分である。“子ども達が安心して遊べる施設づくり”“児童館や図書館などの広く子ども達を受け入れる施設を整備する”といった意見にみられるような建設的なまちづくりも重要である。遊びを中心とした子ども達の地域生活は年齢と共に発展変化する。こうした成長に対応した子ども達の地域施設の整備が必要である。この点で特に重要なのは、中・高校生達の地域での居場所づくりである。相当の運動量を要求するこれらの年代の遊び（生活）空間は、過密化を深める日本の都市では不足がちである。中学生や高校生の地域での居場所づくりは、犯罪の危険から彼等を守るためにも緊急の課題の一つである。また、これらの施設（児童館・図書館等）や集合住宅等の建造物のエレベーターの内外で犯罪が発生しており、“監視カメラをつける”といった要望も出ている。

### （3）子ども自身の自衛

犯罪から子ども達を守っていくためには、子ども自身が自らを自衛することも必要である。こうした点に関して、子ども自身が心がけたり、親をはじめ大人の側が子どもに教えていることには、次のような事があげられる。

#### <人数について>

遊びをはじめ、地域でいろいろな生活をする時に、できるだけ一人での行動を避けることがあげられる。“一人で遊ばない”“一人で出歩かない”“エレベーターを一人で乗らない”“集団登下校を毎日実行する”“できるだけ何人かで遊ぶ”といった意見に象徴される。犯罪危険の実態調査でも、一人で居た時を中心に少人数の時に犯罪の危険にあっている割合は高く、地域では友達と一緒に遊ぶ・登校するといったことが望まれる。そうした意味で理にかなった自衛ではあるが、子どもの生活の多様性からみて限界のある手段でもある。